

全国の仲間の善意を被災者へ

分会長会議で具体的な取り組み確認

西日本グループにおける『飛躍のステージへ』に向けた事業運営の見直し・強化についての取り組みにあたり、施策の内容や今後の論議スケジュールなど、職場との情報共有のあり方をどうすべきか、などの意見が出され、総支部より、具体的には会社からの提案を受け論議することとなるが、西本部労使間にお

組み——などに触れあ
いさつした。
続いて總支部より、
第4回總支部事務局
長会議、 第6回總支
部委員長会議——など
の報告を行なつた。

11月17日（木）、第6回分会長（拡大・TV）会議を開催し、上部段階の各種会議の報告、ならびに「熊本地震支援カンパ」の具体的な取り組み等について認識を合わせた。



發行所
N T T 労働組合
九州總支部

〒812-0013 福岡市
博多区博多駅東3-2-28

TEL 092-714-8296
FAX 092-461-2242

発行責任者
田 畑 忠 治

編集責任者
久 保 里 美

L 句感

現退一致に向けて

11月は、退職者の会の総会が各地区で開催され、出席をさせていただいているが、宮崎の現役組合員数は最盛期の5分の1くらいに減っており、それに比べて退職者の会会員は現職の2倍になっている、という話をあいさつの中ですると、けっこう驚かれる。

一方で、総会の出席者を見れば高齢の会員が多く、新しい会員が見受けられない総会も多い。退職者の会の皆さんからは、会員は増えても活動への参加者は増えていないとも聞く。そのことは結果として、政治活動等に大きく影響しているのではないかとの危機感も

あり、次代につなぐということは、若い世代だけではなく退職後の活動への関わり方も強く意識しなければならないと思う。

現在、今年度末退職に伴う短期人員政策論議を行なっており、来春には分会の退職者説明会も予定しているが、退職者の課題は、事業運営のみならず、生涯にわたる暮らしや、組合運動に大きく関わってくることを再認識する必要がある。さまざまな場で退職者の会と連携し、将来を見据えた「現退一致」の活動に取り組んでいかなければならぬ。

はじめに 総説
田畠委員長は、20
17春闘に向けた取り
組み、国会情勢、
中間自治体選挙の取り
組み——などに触れあ
いさつした。

ける提案および解明など、現時点明らかになつていいことについて、職場組合員への情報共有をお願いする、との見解を示し認識を合わせた。

支部 fragrance ラリーの実施——などについて提起し、全体で意図統一を図った。

特に「熊本地震支援カンパ」の取り組みについては、中央本部の配分委員会における決

定期に基づき、被災された組合員・退職者の会員および社員等に対

被災地の復興・再生

た。一
齊に空に舞い上
がる熱気球もさること
ながら、夜間に輝くバ
ー映画館

ける提案および解明など、現時点明らかになつてゐることについて、職場組合員への情報共有をお願いする、との見解を示し認識を合わ
特に「熊本地震支援
支部 fragrance ラリーの実施——などについて提起し、全体で意図統一を図った。

する生活支援の一
助として、全国の
仲間から寄せられ
た善意を直接手渡
しで配布できるよ
う準備を進めるこ
とについて提起し
認識を合わせた。
退職者の会会員
を含め被災された
方全員に手渡しで
配布するには、多
くの時間を要すこ
とも想定されるが、
現退一致の取り組
みにより促進する。

分会監査中の週末は
2つのボランティアに
参加した。まずは佐賀
で開催された熱気球大
会。今回は世界選手権
で期間も長かったので
数日予定をしていたが、
最終日前日の夜間係留
には参加できた。午後
の部は会場内から飛び
立つ競技だったので、
間近に見ることができ

はつちゃんねる

「熊本地震支援力ンパ」の取り組みをはじめ、被災された組合員・社員のニーズを把握しつつ、被災地に寄り添つた支援活動を今後も積極的に展開していく。

ンはとてもきれいだつ
た 翌週は、昨年に引き続き福岡マラソン。
大会前日は参加賞の配布をしながら「がんばつて」と声をかけた。
当日は、フィニッシュ会場で、記録証交付後の荷物・着替え場所への誘導を行なつた。完走したランナーの表情はさまざまであつたが達成感でいっぱいのようだつた。来年もこの時期は会場にいることだろう。

(石野正一)

11月は労働時間適正化月間です

はつちゃんねる

